

歴史まち歩き

太古の歴史ロマンに触れる古墳群と、季節の花と果物が楽しめるトレッキング

31 志段味古墳群と東谷山 【JR中央線高蔵寺駅▶東谷山フルーツパーク】

志段味は多様な形式の古墳が多く残されている歴史の里。東谷山白鳥古墳の石室を見学し市内最高峰東谷山山頂の尾張戸神社にお参りします。ゴールは東谷山フルーツパーク。季節の花と果物で、疲れを癒やしましょう。



1 白鳥塚古墳(しろとりづかこふん)

4世紀中頃に築造された全長約115メートルの大型前方後円墳で、古代尾張の支配者であった「尾張氏」(おわりうじ)につながる豪族の墓であると考えられています。墳丘の保存状態は良好であり、国史跡に指定されています。白い色をした石英などの石で覆われており、かつては墳丘が白く輝いて見えたことから白鳥塚の名がついたといわれています。この石英を敷くことや古墳の形態などの特徴が、ほぼ同時期の近畿地方の前方後円墳とよく似ているため、近畿地方にあった当時の政権(大和王権)と強いつながりがあったと考えられます。

2 東谷山白鳥古墳(白鳥1号古墳から改名)

7世紀初頭に築造された直径約17メートルの円墳で、須恵器や馬具、耳飾などが出土しています。また、ほぼ完全に残存する横穴式石室がみられる名古屋市内では唯一の古墳で、市の史跡に指定されています。

3 尾張戸神社(おわりべじんじゃ)社殿

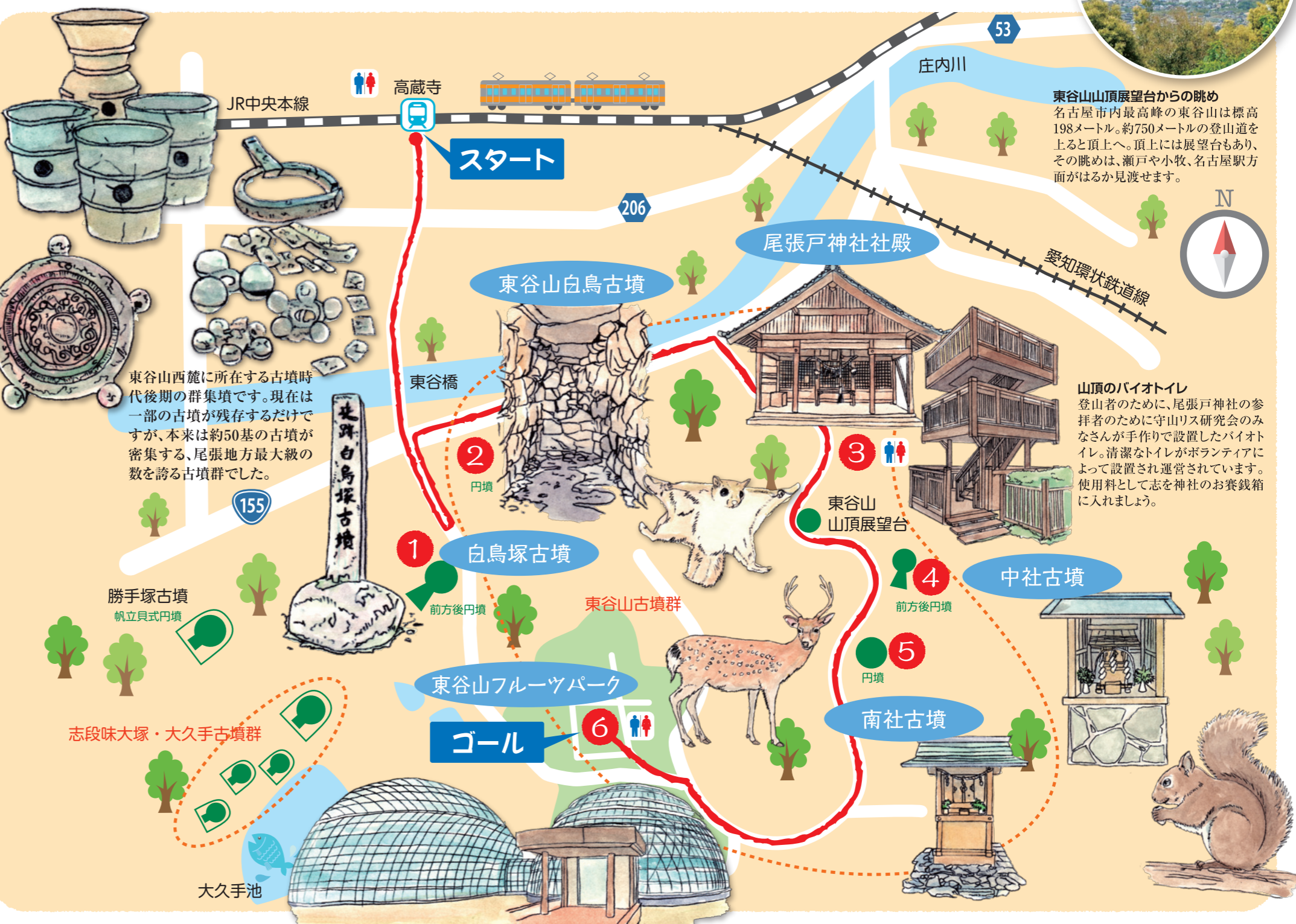
「東谷山(とうごくさん)は熱田の奥の院」と言い伝えられてきたように、古くから衆人に篤く崇拝されてきました。山頂にある尾張戸神社は、尾張氏の祖神である天火明命(あめのほあかりのみこと)、天香語山命(あめのかぐやまのみこと)、建稲種命(たけいなだのみこと)を御祭神とします。延長5年(923年)には延喜式に記されており、近隣でも稀な古社です。また近世には名古屋城の鬼門の守護神として徳川藩主より崇敬されました。

4 中社古墳(なかやしろこふん)

4世紀後半に築造された墳丘長約55メートルの前方後円墳で、墳丘には葺石があり、ほぼ全体的によく残存しています。最近の調査により、円筒埴輪の破片が多数出土しました。この円筒埴輪は濃尾地方では最古級のものです。近畿地方の大型古墳と同じ特徴をもつ埴輪であるため、近畿の政権中枢部と密接な関係があったと考えられます。

5 南社古墳(みなみやしろこふん)

古墳時代前期に築造されたと考えられる墳丘長約55メートルの円墳です。尾張戸神社古墳・中社古墳と並んで東谷山の山頂に立地しています。葺石や埴輪の存在が確認されていますが、正式な発掘調査はまだ行われていません。



東谷山山頂展望台からの眺め
名古屋市内最高峰の東谷山は標高198メートル。約750メートルの登山道を上ると頂上へ。頂上には展望台もあり、その眺めは、瀬戸や小牧、名古屋駅方面がはるか見渡せます。

山頂のバイオトイレ
登山者のために、尾張戸神社の参拝者のために守山リス研究会のみなさんが手作りで設置したバイオトイレ。清潔なトイレがボランティアによって設置され運営されています。使用料として志を神社のお賽銭箱に入れます。